

「観光」で平和な世界を」

那覇市立首里中学校 3年生 ひがおんな 東恩納 りほ 利帆

日本の南に位置する小さな島、沖縄。独特な文化や世界遺産、透き通った青い海、白い砂浜で知られるここ沖縄には、毎年国内はもちろん海外からも沢山の観光客が訪れます。日本で唯一、本土と陸続きになっていない県ということもあって、日本人観光客でも胸を高鳴らせながら楽しい一時を過ごせることでしょう。

そんな沖縄は今年で戦後七十年を迎えました。かつての第二次世界大戦後、アメリカによって支配され、日本でたった一カ所地上戦が行われた場所でもあります。現在でもひめゆりの塔や平和祈念公園、そして沖縄県だけで日本全体の70%以上を占めると言われる米軍基地など、戦争の傷跡が残されている場所が数多く存在します。また、沖縄の方言である「しまくとぅば」が使われなくなってきているのも戦争が関わってきていると言えるでしょう。

このように沖縄は戦争の悲惨さを身近に感じることでできる場所だと思えます。そんな場所だからこそ、“観光”を通して沖縄を訪れた方々に平和に対する思いを発信していく必要があるのではないのでしょうか。

観光客に沖縄の有名スポットである青い海や数々の世界遺産を観光させてもらい、沖縄を好きになってほしいのはもちろんのことですが、それ以外にも戦争の傷跡が残っている場所をまわってもらい、いろいろな国や地域の人に『戦争はもうしたくない』と感じてもらうことが世界平和に繋がるのではないかと思います。

そのためには、沖縄の観光をより発展させ、より多くの観光客に来てもらう必要があります。では、沖縄の観光をより発展させていくためにはいったい何が必要なのでしょう。

エイサーや琉球空手などの伝統文化を若い世代に受け継ぐことや交通機関の発達など様々な課題点が挙げられますが、私が一番最優先に行うべきだと思うのは消滅の危機にある沖縄の魅力を守っていくことです。私が思う一番の魅力は、美しい海や森などの自然豊かな環境です。

五十年ほど前までは“三種の神器”と呼ばれていた「電気洗濯機、冷蔵庫、テレビ」はどこの家庭にもあるのが当然な物になりました。沖縄県的那覇市に目を向ければ分かるように、大きなビルやホテルが立ち並び、移動手段であるゆいレールも目覚ましい発展を遂げています。現在では、交通機関を発展させるためにゆいレールの路線を拡張する計画がすでに進められていたり、沖縄に昔

走っていた電車を復活させようという案も出てきていて、実行されようとしています。

ゆいレールの範囲が広がったり、車よりも遥に速い電車が通れば、移動時間が大幅に短縮でき、私達の暮らしもより便利なものになることでしょう。そして、観光客も公共機関を使って今までより広い場所を観光できると同時に、渋滞にあうこともないので、気持ちよく沖縄の観光を満喫できると思います。

しかし、その一方で観光の面でのデメリットも考えられます。次々に都市化が進むことによって、排気ガスなどの有害物質が増え、花や草木などの自然は失われていきます。また沖縄は土地が狭いため、島全体を電車が走るとすれば、少なからず自然は失われ、海までも埋め立てられるかもしれません。そうすれば、沖縄の一番の魅力である美しい自然が少なくなり、観光が発展していくことは困難だと思います。それに、これから先、沖縄の都市化が進んで島全体がビルやショッピングセンターばかりになったら、観光客は沖縄に来て何を感じるのでしょうか。日本本土は圧倒的に早く都市化が進んでいきます。毎日、身近な場所に大きな建物や人で溢れかえっている駅があります。私は、そんな場所から来る観光客は自分の住む土地にはない、自然に囲まれた場所を求めて沖縄に来ているのではないかと思うのです。つまり、沖縄の自然がなくなれば、今の沖縄の環境を求めて旅行に来る観光客は減り、リピーターとして来てくれる可能性が減るということも考えられるわけです。

都市化を進めることは、観光の発展だけでなく沖縄県の将来の発展に繋がるともいえますが、それを行うと同時に沖縄の魅力である自然を守っていけるかが、これからの観光を左右する重要なポイントになってくるのではないのでしょうか。

それを実現できた時、沖縄へ足を運ぶ人が増え、より多くの人に平和に対する想いを伝えることができると思います。私の理想とする沖縄の観光は、「沖縄の良さを十分に伝えながらも平和の尊さを世界に発信できる島」であることです。私は沖縄の将来を担う若者として、そんな沖縄を目指していきたいです。